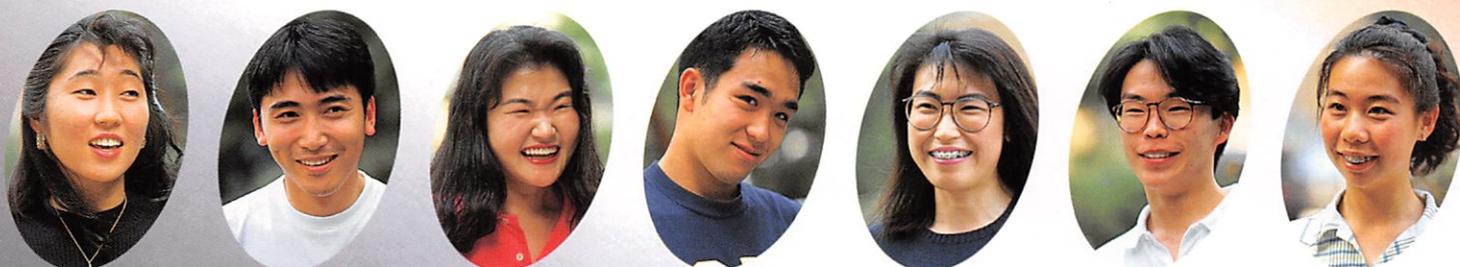


ZOOM UP



1993. No.84



キャンパスの若人
昭和大学歯学部



歯界展望

ご存知、天下の名門・難関校の一つとして、秀才を集める慶應義塾大学医学部。開校は大正6年4月。それまで慶應の創設者である福沢諭吉翁からの後援を受け、伝染病研究所の所長をされていた北里柴三郎が初代学部長となり医学部を創設。以来76年余り。戦中戦後の変遷は他大学同様あるものの、現在三四会(本部の所在地・三田と此処医学部のある四谷の頭文字から名付けられた)の会員として同窓会名簿に記載された卒業生は約6,000名。

ご紹介の細田医学部長は数えて第17代目。名門校の部長ゆえ、謹厳実直、威風堂々、近寄り難い人物を想像していたが…。「やあ、お待ち致しました。細田です、よろしく」と現われた先生。にこやかで丁寧、気さくな雰囲気は頼れる兄貴(失礼)といった印象で、此



慶應義塾大学医学部長

細田泰弘

方が恐縮してしまうほどである。

—門から玄関まで、毎日こんなに人出が多いのですか? 「ええ、多い時は1日の患者数が5,000人を越えるんですよ。新病棟を計画した当時は外来を3,000人と予想していたんですが、今はそれをはるかに越えてしま…。そうした現況が、医師、看護婦その他にシワ寄せが来て、1人当たりの診療時間やサービスの低下につながって来ています。収入面を見ましてもスタッフは超多忙であるにもかかわらず、検査等の遅れもあって、1人当たりの収入は減って来ているのです。その原因として考えられるのが、従来なら町の開業医に行くべき単なる風邪や腹痛など、一次医

療に属する患者さんも、大学病院に来られる現状にあるのでは、と思っております。もう限界ですね。歯科も同様であると聞か…。大学病院の悩みを話してくれる。

—超多忙な現場と、一方ムントラピー(ドクターによる治療上の会話)など盛んに云われているそのギャップ。当校における教育は? 「本学では医学序論の時間に、作家の、なだいなだ先生や精神科・哲学科の先生方が医の倫理についての講義を行っていますが、現状は患者さんも医療スタッフも双方が不満足であるという状態で…。—現在歯科も同様ですが、医師を削減する方向にあり…。先生のお話を聞きしているとちょっと矛盾を感じますが…。「ええ確かに。その問題を私は、医療サービスを医師がどこまでやるべきな

のか? 国民が医師に求めるサービスの限度とはどこまでをさすのか? にあると思うのです。現在ある国公立大学病院の医療財政は既に破滅に近い様相を呈しています。政府の医療にさける総ての原資も枯渇してしまっている現状を見る時…。例えば、予約における追加料金や自由診療制度の導入、又民間保険の活用等、多様性を認める医療制度に変わらざるを得ないのでは、と思っております。問題は切迫しているのですが、いざ実行となると難しいですね。

お生まれは東京・洗足。幼稚舎から大学まで通した生粋の慶應っ子(人?)。医学部に進まれたのは? 「廻りが皆経済学部に進んだものですから、医者が1人位いてもいいだろうと(笑)。以前父から、お前は苦労知らずだから経済を出て会社勤めをしていたら、今頃は首になってるな、と云われました(笑)。最初は臨床医になるつもりでしたが、卒業後、インターンを終わって専門分野を選ぶ時に、とりあえず病理学も勉強してみようか、と4年間やったのが運のつき(笑)、そのまま今日に至りました」と笑われるが、剥離性大動脈瘤の研究に対して北島賞を受賞されるなど、並の秀才ではない。—ふり返っての人生は? 「うーん、難しいですね(笑)。学部長と云う肩書は世間的な評価は高いかも知れませんが、個人的には病理学教室で自分の研究をやっていた方が私の性に合っていると思いますし、ましてや今のよう難しい時期にこの大任。疲れますよ(笑)。就任時、友人から“おめでとう”と云われ、思わず、どうして、

と聞き返したら“人を惑わす論文をもう書かなくても良いから”(笑)。」愉快的学部長である。—今後の医療界の行方をどのように思われますか? 「医師過剰、医療費の高騰、医療過誤に対する国民の権利意識の変化、医の倫理問題、数えあげたらキリがないほど、総ての問題点が、いま集約して来ている、と感じます。正確な予測は不可能ですが、私はこの10年間に総ての問題がいち時に沸騰しつつある、いわば混乱期に入っているような気がいたします。資本主義経済下のもとで、他の職業は厳しい選別がなされ、それに対処して来ましたが、良否は別として医師にはそれがありませんでした。今後は医師の技術や人間性までも含めた質的選別が厳しくなっていくであろうし、それが私には正しい方向であるような気がいたします。」「その為の医師の養成—問題発見能力と問題解決能力、この2つを兼ねそなえた優秀な学生—医師を育てるのが、我々大学人の役目・任務だと思っております。—歯科医師と医師。その治療は口腔外科などをみますと、もう全く区別がないと思えますが、先生のご意見は? 「確かにその通りだと思います。医科においても食道静脈瘤は以前は外科領域でしたが、今は放射線科や内科に変わって来ています。口腔内での手術も医科がやるべき分野と手術前後に歯科がやるべき分野とがありますから、互いに対立すべきではなく、共同で患者を治して行く姿勢が必要だと思います。総論的には協力が望ましいが、各論になりますと…。そこまで来ますと、個人間の信頼関係になりますから…。歯科、医科と問わずこれも又難しいですね。—先生ご自身の歯は? 「目も頭もあまり良くはないんですが(笑)、歯だけは丈夫でしてね。残念ですが(?)あまり縁がないんですよ。ユーモアを交えながらのお話に、つい予定の時間をだいぶオーバーしてしまった。写真でもおわかりのように今年62才を迎えたとはとても思えない、慶応ボーイそのまま、といった印象の親し味の湧く医学部長である。

●略歴

昭和6年7月 東京に生まれる
昭和30年3月 慶應義塾大学医学部卒業
昭和35年6月 慶應義塾大学助手(医学部・病理学)
昭和41年4月 慶應義塾大学講師(医学部・病理学)
昭和42年8月 米国Baylor大学医学部病理学教室に1年間留学
昭和49年4月 慶應義塾大学助教授(医学部・病理学)
昭和60年4月 慶應義塾大学教授(医学部・病理学)
平成3年10月 慶應義塾大学医学部長
現在に至る

私と昭和大学 歯学部

歯学部長
吉木周作



■プロフィール

昭和32年3月 東京歯科大学卒業
昭和33年4月 東京歯科大学助手
昭和36年4月 東京歯科大学講師(口腔病理学)
昭和45年4月 東京歯科大学助教授(同上)
昭和52年4月 昭和大学教授(歯学部 病理学口腔病理学)
平成5年4月 昭和大学歯学部長(歯学部教授 同上担当)
平成5年5月 学校法人昭和大学理事

池上線・旗の台駅から徒歩でおよそ7分。大学正面の木陰の中に“すすき野に大学舎成りぬあ五十年”と大正末期から活躍した馬酔木派俳人の水原秋桜子(当大学初代産婦人科学教授)の句碑が建っている。が、現在の大学周辺はすすき野の面影など想像もつかない巨大なビルや住宅がピッシリ。秋桜子がこの景色を見たら、今度は何と詠むだろう。

激変する環境のせいばかりではないようであるが、当大学では以前から緑豊かな山梨県富士吉田市に校舎と寮を有し、入学一年次に医・歯・薬3学部の学生を同室で一年間生活させ、高い教養を学ぶ独特の教育制度がある。

——その制度の良否と目的は? 「本学は医系の総合大学ですから、将来は必ず、病をえて弱い立場にある患者さんと接するわけです。そうした方々に常に思いやりの心を持って手を差し伸べる精神——即ち生命をいつくしむ倫理観を学ぶ一環としてこの制度を採り入れております。医・歯・薬の学生が一つの寮室で生活することにより、自分だけの我儘は通用せず、否応なく相手と協調し生活しなければならない。特に最近の学生は小さな頃から個室を与えられ、自由奔放に育てられて来ましたから、妥協し仲良く生活することの必要性や、自分の個性を大切に他人の個性を尊重するルールを学ぶようです。」とまあ、これが全寮制教育を始めた学校側の目的なのですが(笑)、思惑どおりには行きません。悪貨は良貨を駆逐する、といわれますが、ときにそうした弊害も出て来ることもある、というのが本音です」と明るく笑う。写真でもおわかりのように、スポーツ選手を思わす浅黒く引き締まった容貌からは研究一筋の基礎(専門は口腔病理学)出身の歯学部長とはとても思えない。「ただ、中で

非常に良いな、と思える点は、こうした体験により、医・歯・薬の学生がお互いに何のわだかまりも持たず協調し、話し合うことを社会に出ても続けている姿を見るときです。学部を越えて、先輩は先輩、同級生は常に同等。当たり前なんでしょうが、差別意識やコンプレックスが全くない、同窓生としてのつながり、これは素晴らしいことだと思いますね。印象通りカラッとされたご性格のようで、お話していても楽しい。

ご出身は愛媛県。東京歯科大学を卒業後、母校に残って研究、講義をされていたが、当校設立にあたり赴任。以来16年余り。今年4月5代目歯学部長にご就任。「私は40年近く基礎畑のみを歩いて来た人間ですので、自身が歯科医師であることを忘れていた位なんです(笑)。従って他のご登壇者のように実のあるお話が出来るかどうか」と度々云われるが、それがかえって誠実で気さくなご性格を感じさせ、此方の気持ちを和ませてくれる。

——一年次の当校独自の勉強はわかりましたが他の年次のカリキュラムについては？

「私立ではかなり前から6年一貫教育の必要性を感じ、いわゆるクサビ状のカリキュラムを作って実施しておりました。本学でも52年の開校当初から、語学のみを残し2年次から専門科目を採り入れております。解剖学、生理学、生化学等の正常人体の構造と機能に関する基礎学問をもとに、3年次には病理学、薬理学、微生物学、衛生学、理工学等の病気やその予防等の人体の病気に関する勉強や実習をします。4年次は実際に歯の病気を治療するための方法論や技術。いわゆる歯科医になるための臨床基礎医学ですね。5年の前半期位までそれ等を指導し、5年次の後半から6年の前半にかけて、



インストラクターと共に実際の患者さんにあたっていく病院実習を学びます。以上が本学の概略カリキュラムの内容です。ゆっくりと丁寧に話し下さる。

——先生ご自身、歯科医師を志された動機は？「うーん。それがわからないんですよ(笑)。高校卒業時、実は工学部に進みたくて早稲田の理工学部を受かったんですが、友人が東歯大を受けるから君も受けてみたら、と云われ……。通ってしまったんですよ(笑)。親に相談したら、機械屋も良いが、歯科医も良いかもと云われ、入りました(笑)」。動機はいささか不純であるが、正直なお話が気持ちいい。本音で話される学部長のお話は、おそらく学生さん達にも好印象となって伝わることだろう。

——ふり返っての人生は？「そんな訳で学校を卒業しても、病理学の研究や実験ばかりくり返し……。恥ずかしいことですが、立派な歯科医師とは、と聞かれても未だに分からないことが多いですよ(笑)。ただ経済的には、開業した友人は私より数倍の収入があり、時には羨ましいと思ったこともありましたが、それより研究や実験の方に興味があり……。何とか生活出来ればいいや、と今日に至りました(笑)。我儘な性格なんですかねー(笑)。でも歩いた人生には全く悔いはありませんよ」。愉快的な歯学部長である。

先年イタイイタイ病として世間の注目を集めた骨の病気に対して最近先生の「吉木法」と名付けられた判定法が採用されたと聞く。

誠実な歩みの中に幅広くユーモアを解する豊かなお人柄。臨床医になられていても、おそらく多くの患者さんから慕われる素晴らしい院長となっていたことであろう。

社団法人

秋田県歯科医師会



- 会 長 豊間 隆
- 副 会 長 広幡 直純
- 副 会 長 佐藤 利実
- 専務理事 玉木 修
- 常務理事 石田 宏
- 常務理事 井関 時男
- 常務理事 斎藤 長俊
- 常務理事 佐藤 正孝
- 理 事 山内 静
- 理 事 堀部 清元
- 理 事 藤原 元幸
- 理 事 高橋 文明
- 理 事 千葉 正明
- 理 事 高橋 陽一
- 理 事 越前 和俊
- 理 事 田口 昭博
- 監 事 工藤 忠利
- 監 事 上野 哲治
- 監 事 太田 晃



会 長
豊間 隆

タ生まれへと若返った。新生成った県歯会、先述の日本国同様、新旋風を巻き起こそうだ。

Q：閉鎖性が強いと云われている歯科界において、まさに時代の波にピッタリと合った公明正大な選挙戦でしたね。抱負は？

会長：ええ、全国でも初の試みでしたので、選挙後も各地から問い合わせがありました。ただこうした試みは、若い会員の方々からの強い要望があったことは無論ですが、前を歩まれた先輩の先生方の新しい時代に即応する先見性と理解力——密室政治を止めようとする言動が、大きな原動力となったことは確かです。

まだ4月からですので、時間もあまりたつてはおりませんが、とにかくガラス張りの執行部でありたいと……。色々な情報や決議事項、委員会の動き等が会員に即わかる——少なくとも1ヶ月以内に伝わることを基本に現在やっております。

玉木：現在、県民約121万人を会員435名プラスその他がカバーしておりますが、その会員の方々の1人1人に新しい情報が迅速に届くよう、当会では新しく情報局という部署を設置しました。毎月「ウェルカム(Welcome=良く噛む)」という広報紙を発行し会員間の情報や意見、又お知らせ事項を掲載しておりますが、会員の方々が積極的に協力してくれ、評判も良いようです。今後共、情報はどんどん流

し、それと同時に会員の意見も吸い上げる、開かれた県歯会の姿勢を貫いて行きたいと思います。



副会長
広幡直純

Q：秋田市歯科医師会の会長も兼務される広幡副会長。最近の相談ごとではどんな事柄が多いですか？

広幡：やはり過密による相談ごとが多いですね。県単位で考えますと現在2,300人に1人位の割合ですが、市内では1,800人に1人位になっております。ただこうした現象はこの都市部でも起こっている現象でして、会による規制を行うことは出来ません。総会の時、会員相互が意見を出し合い、キチッと話し合いをすることにしています。が、大きく物事を考えてみれば、こうした競争はどんな業界にも起こり得ることで、例えば、以前差額請求を得た人は患者の質の変化や保険制度の在り方に文句があるでしょうし、1日50人以上も治療をやった人は、現在の患者数に不満をいだく。ですから基本姿勢を医院と云えども現在の自由競争下で競い合い、お互を高め合っていくことに置き、個々の問題は徹底的に話し合うこと。そこに重点を置いております。

会長：当県はもともと農業県ですし、大企業がありません。10年程前から保険を主体とした診療方針を打ち出したので、ここ数年は保険点数が全国一となりました。県歯の方針としては、各医院における裁量権を最大に尊重し、学問や臨床法から見てそれが妥当なら、通すようにし

秋田駅から車で約10分。秋田県歯科医師会会館は、駅周辺の繁華街を抜け、県庁や市庁舎、スポーツセンター等、県民の行政と経済、健康管理を一堂に集めた感のする広い緑地帯の入口に位置する所にある。幹線道路を一本入った4階建の会館は、外壁はグレーのタイル貼り、間口は約25m、奥行4~50mという県歯会館としてはあまり大きくはないが、その中身・内容は、今回日本の政府が大きく変化した時を同じくしたようにガラリと変わられた。読者の先生方の中には既にご存知の方も多いことかと思いますが、今年3月役員改選時にあたり、県下を4ブロックに分け、立候補者の立会演説会を実施。しかも会場に集まった会員からの質疑応答方式を採用している、文字通り、会員1人1人が納得する選挙戦を繰り広げた。

こうして選ばれた役員の方達、年齢も2人の明治・大正生まれを残し、一気に昭和2ヶ

ております。又、これは県民性かな。当県の歯科医は自由診療を患者にあまり勧めないんですよ(笑)。

玉木：確かにそうですね。保険が全国一と云われますが、逆に云うと一般が少ないということです。ですから各医院1軒当りの収入は減って来ているんです。こうした現象を分析すると、大企業が少ないことから、若い人が県外に出ていき、高齢者が多い。従って保険による治療の割合が高くなって来ているようです。全国的にみた高齢者の割合は全国平均が約13%に対し、当県は17.2%となっています。加えて歯科医師の過剰。市内の1800人に1人の割合が年毎に県下に移行して来ています。その為の対応を今検討中ですが、早過ぎて戸惑っている、というのが実感です。

広幡：現在、県下には11の郡市部がありますが、毎年その支部を役員と希望事項の担当理事が必ず出席し、移動懇談会を開催しております。1年がかりですが、若い会員の方々とも身近に話し合いが出来、何よりお互の意志疎通が良く出来ますから好評のようです。



専務理事
玉木 修

会長：中央にある日歯会の動きや方針は、会員の隅々にまでは伝わらないことが多くありますが、県歯会の動向は総ての会員が理解し得るよう、いままでとかく独裁的な印象を与えていた会をとにかく開かれた会として、個々の意見に耳を傾け話し合える場を作ることが大切だと考えています。

広幡：長い歴史があって、現在があるわけですから、一時に変えることは出来ません。過去の良いものは残し、その上に時代の流れに沿った新しいものを積み上げてゆく。保険点数にしても確かに矛盾したところもありますが、現時点ではこれがルールだと思いますから、それを守りつつ、歯科医師の悩みや苦しさを一致団結して改定する方向に持っていくよう努力すべ

きだと思っております。

佐藤：私は郡部より出てきておりますが、本県も過疎に悩み若い人々の流出が多くなっている中で、歯科医師だけは都市部、郡部の関係なく開業者が多く、いずこも厳しくなってきました。こうした状況の中で、今後の県歯会の方向性を知り、理解して貰い、今迄以上に強い絆を持った会にし、お互いの信頼感を深めたいと思っております。

Q：将来の展望については？

会長：いままでとかく県民不在でありがちだった当界を、行政と県民と歯科医師会がいっしょになって地域医療を見直す方向に重点を置いて行きたいと思っております。その為のアピール——歯科の重要性をまず県民の方々に認識させる為の活動を繰り返しなければなりません。在宅診療も8020運動も、県民と共に歩く姿勢を我々1人1人自覚しなければ決してうまく行きません。幸い当県は会員の方々も積極的に協力してくれておりますので、実現に向けて努力を惜しまず頑張っていきたいと思っております。





谷津歯科医院

こどもクリニック

宮城県伊具郡丸森町字鳥屋34番地

院長 谷津徳男 副院長 谷津正則





ご紹介の谷津歯科医院は福島駅から第3セクター阿武隈急行線に乗り換え約1時間、阿武隈高地の裾野・丸森町にある。町は阿武隈川の清水に沿って両側に位置し、まさに山と川のある町といった、風光明媚な静かな佇まいを感じさせる。

L字型につくられた診療所と住居の前面は広い駐車場。表示の医院名の下に“こどもクリニック”とグリーンの文字が描かれている。昨年12月、小児歯科を専攻された副院長が戻られるにあたって新築、本格的に小児歯科を導入されたことへのお知らせである。

建物の外壁は薄茶のタイル貼り、屋根はダークグレー、玄関アプローチには花壇が作られ、医院全体を柔らかく演出している。

待合室の床は淡いブラウンとグレーのちど格子のタイルカーペット。窓に沿って明るいオレンジ系の待合用椅子が並ぶ。アール状に作られた受付の側面は木目、カウンターはベージュ。開放的で居心地の良さそうな待合室の雰囲気である。

診療室の床はブルーグレー。天井、壁は白。室中央を両面から使用出来るキャビネットで分け、左前面を一般歯科、右裏面を小児歯科に使用されているとのこと。アール状に作られた前面の窓に沿って、グレー&アイボリーのスマイリー〈ノーベル〉RLタイプユニットが並ぶ。奥面には個室が作られており、そこは主に矯正用の相談室にあてられているとのこと。中にはコンピューター、机上シャーカステン等が設置されている。

ゆったりとした敷地に広々とした診療室。地方ならではの診療所である。

院長は昭和37年に日本大学歯学部をご卒業。卒後は国立医療センターでおおよそ1年半。その後生まれ故郷である此処丸森町に戻り、町立病院の歯科で約5年勤務医を経験。昭和43年、開業へと踏み切られた。その間、口腔外科医として有名な今沢四郎先生(故)の門下生として口腔外科を10年学ばれると共に55年から日本大学松戸歯学部麻酔学教室(谷津三雄教授)に通い、日本大学より歯学博士の学位を授与された。又、会での活躍も宮城県歯科医師会角田支部の支部長を13年務められたという自他共に認める努力・実力派である。

副院長である正則氏は、昭和63年、東北歯科大学(現奥羽大学歯学部)をご卒業。その後東北大学歯学部で神山紀久男教授の指導の下、小児歯科を1年間学び、現在も診療の傍ら週3日、佐藤博教授の指導の下、母校の小児歯科学講座の専攻生として学んでおられるという、親子揃っての努力家である。

インタビュー中もお互を立て、明るい会話が続く。断絶など微塵も感じられないザックバランな親子関係にあるようだ。

Q：親子断絶など全く感じられませんか？

院長：いえいえ(笑)、この診療室を作るにあたっては、ずい分やり合いましたよ(笑)。息子はお互の専門分野を活かし、小児と一般をハッキリ分けたいと。私は長年総て

いっしょにやって来ましたから…。結果的には良かったと思っております(笑)。

副院長：初めはもっとハッキリと。1階と2階ぐらいに分けたかったんです。でも総ての設備が2通り必要で…。費用のことなど考えてやめることにしました(笑)。私の主張も受け入れられ、この室内はほぼイメージ通りで満足しております。

Q：診療も総て分けられているのですか？

副院長：泣きさわぐ子供は、院長は苦手のようで(笑)。最初は私がほとんどやります。子供が慣れて来たら、私は週3日のみです。院長にバトンタッチをする場合も多いですね。子供さんはどうしても時間を取られますので、2人での診療はやはり良かったな、と思います。ただ今後一般の患者さんが増えた場合困ったな、と思っています。

Q：この辺りの歯科医師事情はどうですか？

副院長：人口2万弱、歯科医院は現在5軒。来春1軒オープンされるようです。歯科医師会にも今迄は若い人がおりませんので、私も遠慮しておりましたが(笑)、だんだん増えて来ましたので、今年入会。若い方達と話し合っ、共に地域の歯科医療のレベルアップをして行きたいと思っております。

Q：患者数、患者層は？

院長：大きな産業がないものですから、若い方が少なく、高齢者と子供、主婦の方が多いですね。当地は長生きの町として、



ふじの歯科医院

東京都立川市砂川町4-37-20

院長 藤野寿夫





立川駅より北に向って車でおよそ15分。駅周辺は巨大なビルが建ち並び、一大繁華街を作り上げているが、この辺りに来ると不思議な程、田畑が点在し静かな郊外住宅地となる。更に走れば団地群があると聞けば、これはおそらく近年返還された広大な面積を有する立川基地の一部が土地高騰と重なり、こうした現象を作り上げたのであろう。

ご紹介の「ふじの歯科医院」も、その中、新しく整地された太い道路に面した角地に建っている。

角面の土地を、奥の一角に建物を寄せ、道路からおよそ4~5m幅の空間を作り、前面に花壇、庇(ひさし)を出した玄関アプローチ、車椅子使用者のためのスロープ、5~6台可能と思われる駐車場を設置してある。

2階建の建物は、屋根が濃グレー、外壁は薄茶のタイル貼りに、約1m幅の研磨された帯状のステンレスを巻き、周辺の緑と白いイメージが強い住宅街の中にあって一際目立つ建物に仕上げている。

待合室の床はグレーと薄いオレンジの斜線模様。側面を大きなアール状のガラス窓とし、それに沿ってアズキ色の待合用椅子が設置されている。

道路に面した診療室は、床は待合室と同材同色。ユニット前面は、待合室同様アール状の前面ガラス。それに沿って濃淡グレーの〈ファインGM〉3台が並ぶ。広々としたユニット背面に長方形の独立したキャビネッ

ト。表面と裏面、それぞれの用途に応じ器具機材が収納されている。室内に入ったすぐ左側に受付台と同じ高さ色で20cm×30cm位の長方形のボックスが設けられ、下面は法令用紙入れ、上部はカルテ等のちょっとした置場に利用されている。小さなスペースであるが、受付と院内が心理的に区別され、又お互いが忙しい時や収納に役立つ。ちょっとしたアイデアであるが、これから院内設計を、とお考えの先生方、ご一考下さい。

院長は昭和62年、鶴見大学歯学部を卒業され、そのまま大学の補綴学教室で3年間研修生活を。その後開業医&アルバイトで4年間程勤務医を経験。今年4月、生まれ育った此



処砂川町で開業へと踏み切られた。

Q：ご開業半年弱。落ち着かれましたか？

院長：ええ、やっと機材もスタッフも揃い落ちていたばかりです。開業時に総て揃えたと思っても、何やかや足りないものが結構多いものですね。

Q：歯科医を志された動機は？

院長：毎日通勤生活をするサラリーマンが嫌いで(笑)、高校卒業時担任の先生に相談したら、文科系でしたが歯科医になってみては、と云われ…。ええ、今は自分に合っているように思われます。

Q：ご開業早々で、治療以外のことで頭を悩まされたでしょうね。

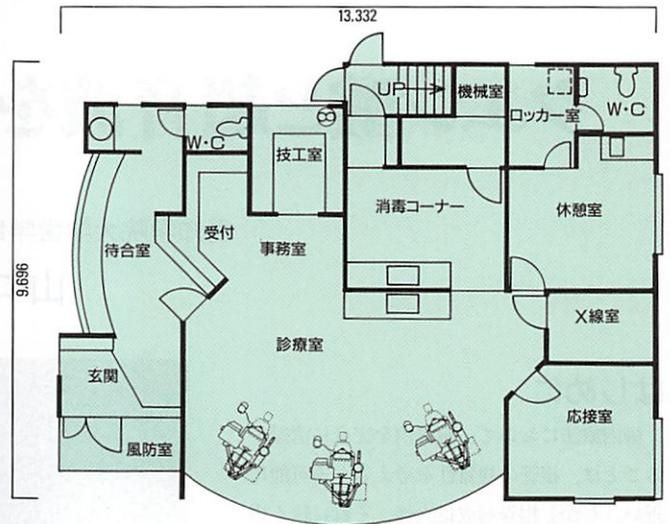
院長：全くわかりませんでした(笑)。でも2人の衛生士さん——1人が2年、1人が6年の経験がありますので、色々と教わり(笑)。よくやってくれ感謝しております。

Q：患者数と患者層は？

院長：1日およそ25名位、多い時は30名余り。主婦、子供、サラリーマンと広範囲ですね。昨年、前の道路が完成しましたのでタイミングが良かったと思っています。

Q：この広い敷地と建物、ご自分で？

院長：いえいえ(笑)。父が丁度この土地を以前から持っておりましたので…。私の小さな頃はこの辺一帯は全て田畑。今私が買って建物を建てるなんてとても出来ま



せんよ(笑)。親には感謝しております。

Q：診療所を作られるにあたってご留意された点は？

院長：設計・施工は父の知り合いに頼みました。外観はおまかせて(笑)、内部はなるべく広々と動きやすくして欲しいと注文しましたが、ユニット背面などちょっと広すぎて、私は平気ですが一日中動き回るスタッフはちょっと疲れるみたいですね。全体的には、清潔で自分が行きたいな、と思うような医院。その為集塵機の設置や手袋、エプロン等にも神経を使ったつもりです。

Q：今後の方針は？

院長：補綴を勉強し、又長くやって来ましたが、悪いところを治し、補綴をしても、その人のケアが悪いと又すぐ悪くなる。最近これではキリがないと思い始めました。それで、それ以前、つまりブラッシングを含めた予防を充実させ、歯周病を防ぐ方向に持っていくことを方針として進めていきたいと思っております。この地で生まれ育ったものですから、腰を据えてキッチンと長く続けてゆくことが大切だと思っておりますが、これ以上患者さんが増えますと治療内容が、ちょっと心配ですね。

Q：現在の保険制度の在り方については？

院長：僕みたいな若い人間が云うのは(笑)。でも時々このままいけば現行の保険制度

のもとでは、経営が破たんしてしまうのではないかと思います。技工士さんや材料店などにもシワ寄せが行っているようで。普通ではないことは確かだと思えます。

Q：オサダのファインGM、何故？

院長：オサダを選んだのは大学、勤務医時代とずっと使っていたことと、アフターケアが最も良かったからです。車なら故障すれば直るまで乗らなければいけませんが、ユニットだとそうはいきません。ファインGMは最も新しい型のユニットで、操作も楽なようでしたので…。ただオサダさんだけでは間に合わない器具等もありま

すので、付帯設備やオプションなどの一覧表があると、新規開業をする場合助かりますね。ユニットについては問題ありませんし、新製品ですが、すぐ慣れました。

Q：卒後数年。同級生とは会われますか？

院長：今のところは余裕もなく、なかなか会えません。先輩に教わりながらやっとここまで来た、というのが実感です(笑)。でもその気にならないと一生会えないかも知れませんから、とにかく身体に気をつけて、そんな機会をぜひつくりたいと思っております。



Z O O M ㄟ C L O S E - U P



徳山順一先生 の巻

東京都中央区

日本橋人形町2-20-4

江戸時代のロマンが残る300年の歴史を持つという下町人形町。戦前は都内随一の人物で賑わったと云われるが、今でも戦災をまぬがれたためか、大通りを一步入ると、江戸情緒のなごりを残す店先に、かつら、扇、三味線、和菓子などが並べられ、道行く人を楽しませてくれる。

ご紹介の徳山歯科医院も地下鉄を降り、昔なつかしい甘酒横丁と呼ばれる通りを20~30m行った中程にある。

今号は藤巻五朗先生のリレーにより、人形町でご開業中の徳山順一先生にご登場頂いた。

「藤巻先生と知り合いになったのは、もう20年位前になりますか。出会いはある勉強会の席でした。以来どううわけか気が合っていて、研究会で話したり、診療後の夜に会ったりで、ずっと続いております。飽きない人間の1人ともいえ、考えている内容に魅力があってユニークですが、彼の医療に対する姿勢はいつも真摯で近づき難い位です。僕はその反対(笑)。ないものねだりの憧れかな」と快活に笑われるが、少人数制の完全個室診療、傍らに取り付けられたカウンセリングコーナー等の設備を見ても、先生の歯科医療にかけられる真剣な姿勢が一目でわかる。

お生まれは石川県小松市。大阪歯科大学を卒業後、市内で勤務医を経験中、知人から此処東京・人形町に良い開業場所があるからと勧められ、昭和43年、29才で開業へと踏み切られた。——以来25年、現在の歯科医としてのご心境は? 「いまは良かったと思っております。でも途中はずいぶん葛藤がありましたよ。僕は昭和38年卒業ですが、当時の大学の、特に臨床歯科学の教育は遅れていましたね。卒業して臨床の現場に立ってみてもう一度勉強をしなければならぬことに気がついたんです。当時から歯科界では臨床医の研究会があり、米国からの情報が主だったので、そのグループのひとつに加わり、より新しい治療法を吸収していきました。それを臨床に持ち込み、当時はとにかく一生懸

命でした。」。印象通り、自分の生き方を真剣に見据える、誠実な先生である。「ところが、その後10年ほど過ぎて又壁にぶつかりましてね。原因は、技術を追求することにより治すことが出来たと信じてしまったことなのです。時間の経過と共に挫折感を伴う症例が出てきました。本当に悩みましたね。その時、出会ったのが藤巻先生もおっしゃっておられる片山恒夫先生でした。それ以前にも論文でお名前は存じておりましたが、当時の僕はその背景といいますか、それを理解する



力、読みきる力がなかったんですね。丁度壁にぶつかり、悩んでいた時でしたから、そのセミナーを受けた時、ものすごいショックを受けました。治療技術もさることながら、人間片山としての生き方が素晴らしいんです。日本の歯科医の誇りというよりも、世界にもあのような歯科医師はいないんじゃないかと思える存在です。片山先生と出会えただけでも、僕は歯科医になって良かったとさえ思っております。でも僕は悲しいかな真似が出来ない。残念です」といわれるが……。

過日講演会時に私が「歯を生かす」と云う演題で話したことがあるのですが、とお見せ頂いた要旨に、現在の先生の歯科医師としての生き方・方針が凝縮されているように感じられたのでそれをご紹介します。——「大分前のことだが、『今日の社会を非人間化させた元凶は医療である』という新聞の小さな記事にハッとしたことがあった。現代の代表的思想家のひとりイワン・イリイチ氏が述べた言葉だが、医薬の乱用が人が本来持っている回復力、抵抗力を弱め、時には医師が健康者を病人にしてしまう医原病さえもたらすと警告を発しているのである。

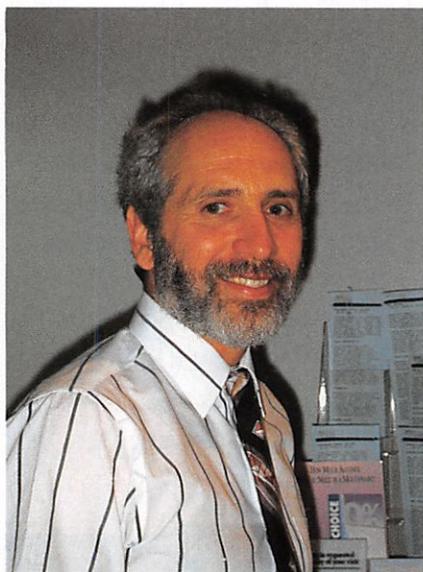
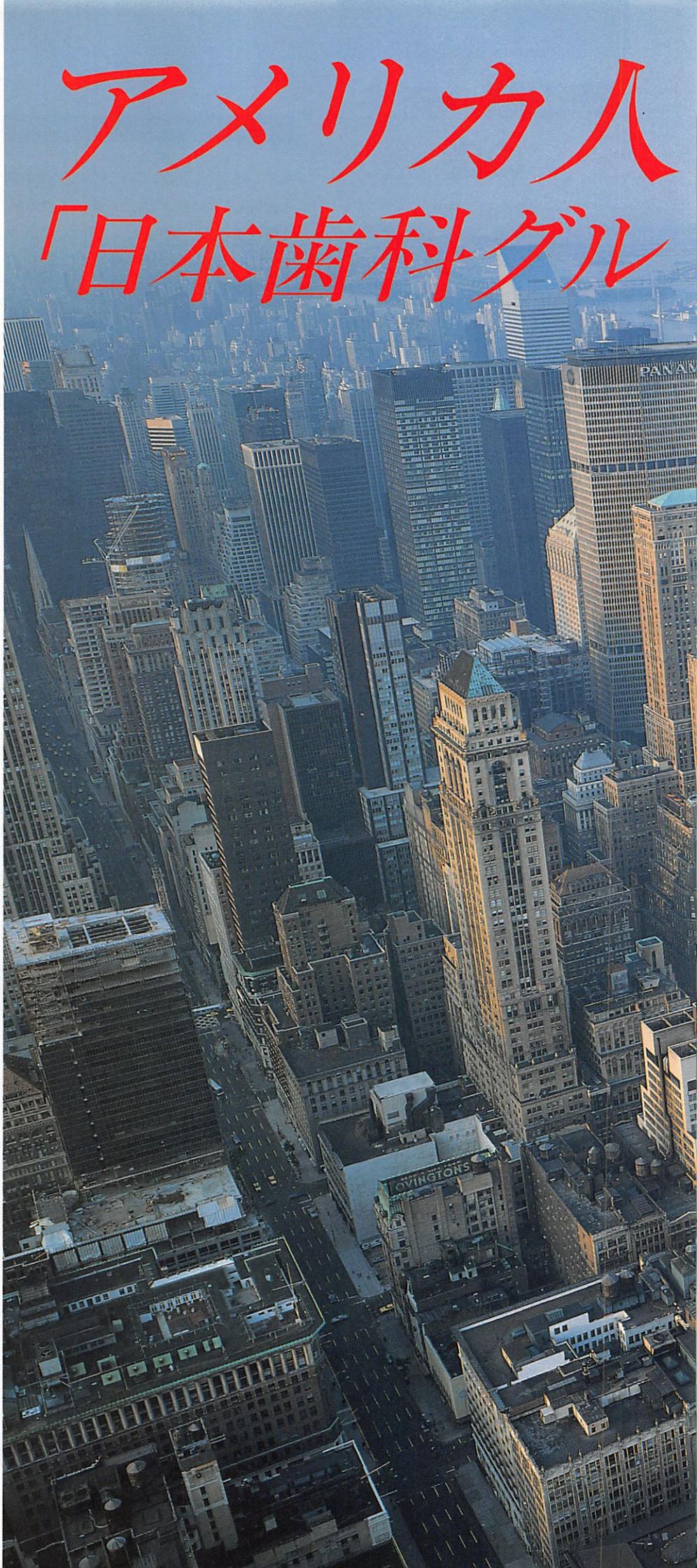
科学の発達、医師側にそれらに頼りすぎるきらいがあったのも又確かで、いつの間にか医療の主体が病人から医師側に移行してしまった。共に治すという姿勢がくずれたのは言うまでもない。自分にしても、より近代的な歯科医療を目指し、努力して来た積りであったが、とどのつまりは『原因存続の中の部品交換作業をしていたにすぎない』ことに気づき愕然とするのである。片山大先輩がこれらを称して『火事場のペンキ塗り』と指摘されたが、正に至言、痛み入ったことを思い出す。

こうしたことを経て、ここではじめて二千年前のヒポクラテスの言葉『自然が癒し医は導く』に行きつく。生きとし生けるもの持つ生命力の素晴らしさが医療の原点であることを思い起こし、病因を除去することによって自然治癒力を復活させることを念頭に置いた医療を原点に置いて試みたのが『歯を生かす治療』であった」とある。——現在セルフ・ケア、クオリティ・オブ・ライフ等盛んに云われているが、医療の原点を真剣に考える先生の診療姿勢がわかるようだ。又こうも「過去歯科医師に対しての国民の評判を考えますと、その時々によって話題は異なりますが、概して良くはない、というのが正直、私の感想です。この評判を僕達が引退するまでに少しでも良くしたい。これが夢ですね」と。

歯科医療を大局的に見据え、そして又歯科医師としての自身の歩みを忠実に一生懸命生きようと努力する誠実な徳山先生の熱意が伝わって来る。

海
外
だ
よ
り

アメリカ人 「日本歯科グル



が経営する
「一」を訪ねて——。



ニューヨークの日本語テレビや邦字新聞に、広告を出し続けている「日本歯科グループ」のことが、この2年程気になっていた。

しかしNYは私にとって地元、自分の家の庭という感じで、何時でも取材出来るという意識が邪魔をして、なかなか話を聞きに行く機会がなかった。それが今回、やっと実現した。

最初ニュージャージー州で発足したこの「日本歯科グループ」は、現在ニュージャージーに2カ所、マンハッタンに2カ所診療所をかまえるまでに成長している。

さぞかし日本人歯科医が集まって……、と想像していた私の期待を裏切り、創業者でディレクターとしてこのグループの管理に当たっているのはアメリカ人だった。

彼の話を知る程に、このグループはどんどん発展するだろう、との印象を持つに至った。

ベロック医

創業者・ディレクターであるベロック医との話を書く前に、まず彼の略歴紹介をした方が、話が分かり易いだろう。

●彼は最初、自分は国連でロシア語の通訳になると思っていたと云う。

NY大学(1963~1967)でロシア語を選考したが、それは両親の勧めによるものだった。当時科学分野では、ロシアの方がアメリカより進んでいたため、世界分野での「未来の言葉」としてやりなさい、というわけである。

三年生の夏ロシアに留学し、ロシア語がペラペラとなった。チェコやフランスその他の国々へも旅する機会に恵まれ、フランス人のガールフレンドが出来たりして、他の外国語にも通じるようになり、視野も広がれば、異文化に対する関心も深まった。

●その後NY大学歯学部で四年学んだ後、コネチカット大学病院で一年インターンをし、



ベロック医とアシスタントのミス・サトー





Waiting Room



海外だより

アメリカ人が経営する「日本歯科グループ」を訪ねて——



次にイエール大学で二年、「ヘルス・サービスと管理」を専攻した。当時この分野で、全米的、国際的視点から問題をとらえ、パブリック・ヘルスやヘルス・ケアの哲学を含めて教えていたのはイエールだけだったからという。当時クリントンも法学部に通っていたそうだから、彼とは同窓生となる。

ここでコミュニティ、特に異文化圏からの移民の多い貧しいコミュニティとは、——それぞれ特長・習慣の違うコミュニティとの触れ合い関係を作るにはどうすれば良いか、そしてヘルス・ケアを提供するにはどうすれば良いか、を学びパブリック・ヘルスの修士号(M.P.H.)をとった。

それからフェアリー・ディケンソン大学の歯学部教授を三年やっている。

以上が、ベロック医が「日本歯科グループ」創立に至る以前の経歴で、ニュージャージーに開業して、1975年から日本の患者を診療し始め、それがきっかけで、「日本歯科グループ」を1978年にニュージャージーに創立した。マンハッタンのこのグループの診療所は、1985年にオープンしている。

患者の100%近くが日本人という。その何よりの理由は、彼のマーケティングのうまさだろう。焦点を、狙う市場区分(日本人)にピタリと当てたやり方、行き届いたフォロー・アップ、ということだが、その背後にあるのは、彼の異文化に魅せられた姿勢だろう。これがあるから、全てに「行き届く」ことになる、と私は思う。

更にこの姿勢を分析するならば、それは、新しいことにどんどん挑戦するので、視野も世界も自ずと広がる、ということになる。

衆知の如く、ニュージャージーのフォート・リー市に住む日本人は大変多い。

最初は駐在員達で、マンハッタンとはハドソン川をへだてて1時間だし、「安い」からという理由で住み始めたと思われる。私は63年から30年、終始マンハッタンのど真ん中に住んでいるが、最初の15年位、彼等からことあるごとに、「何故ニュージャージーに住まないのですか? 何故3倍の家賃を払わねばならないマンハッタンに住むのですか?」と云われたものだ。

私は気が短いから、通勤に1時間もかける気も、やれタクシーのストライキだ、やれ〇〇線の事故に依る停止だ、変更だ、という不便を我慢する気も無いので、自然、いざとなれば何処でもこの足で歩いていける地点に住み続けることとなった。

しかし日本で通勤に1時間以上かかるのはザラという彼等から見れば、1時間は苦痛でないのみか、ギューギュー詰め「殺人電車」に乗っていたわけだから、アパート・ビルの前から乗れて、しかもゆったり座れる席のあるNYのバスや地下鉄は、「天国」に等しい快適交通事情だった様だ。

しかしその中、「僕もせっかくNY駐在となったのだから、1度マンハッタンに住んでみたいのだが——」という人が増えてきた。彼等は住居手当がつくから、それに何がしか自費を加えればマンハッタンに住めるのだが、それが出来ない。理由は、「上役が手当額より50ドル、100ドル安いところに入って会社の為に節約しているのに……」と右へ習えて、彼等も節約の心掛けを示すこととなる。

日本人はこの「右へ習え」の集団意識が最高に強い。1人そのアパートに入ると、ゾクゾクという感じで日本人テナントが増え、家主にとってはホクホクという状態となる。日本人は「静かて、問題を起ささず、苦情は云

わず、その上レント料は規則正しく払う」ので、家主にとって、これ程理想的なテナントはない。

又、駐在期間を終えて1人帰国すると、次に駐在で来た人が、先駐在員のアパートをそっくりそのまま引き継ぐケースが絶対的に多かったから、これも家主にとってはまことに便利なこととなる。

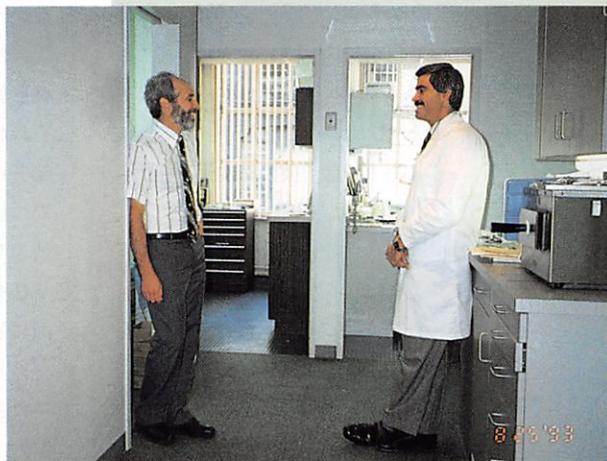
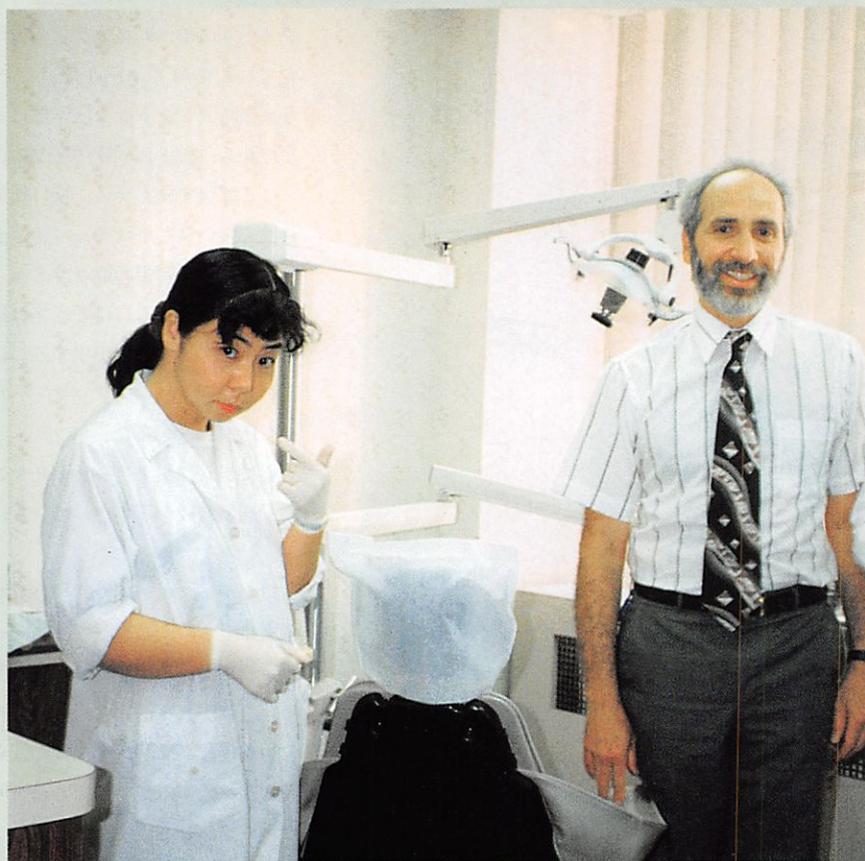
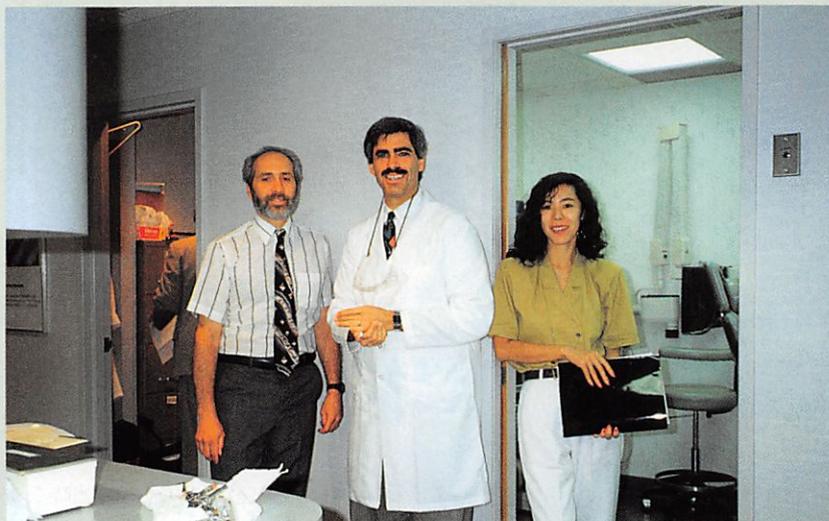
勿論経済大国となって、日本人の意識も些か変わり、近年はマンハッタンに住む日本人も増加しているが、こういう背景があって、フォート・リーの日本人人口が凄く多くなったと思われる。

これは全く余談となったが、理由を知る日本人は少ないのでは、とつけ加えることとしたのだが、フォート・リーにはイタリア系のNYマフィアが住んでいて、「安全」だから、日本人に人気がある、と見ているアメリカ人が案外多い。マフィアの縄張りということで、かえって安全となるらしい。

成功の秘訣

先にマーケティングが上手と書いたが、そこに哲学があり、内容がともなわなければ、いくら宣伝・広報をしても、長続きする発展とはならない。

私がこのグループは発展するだろうとの印象を持ったのは、ディレクターのペロック医が、「行き届いた」思考の人間だからだ。そしてその思考の原点は、「ヘルス」である。患者の歯を中心に考えず、人間としてその心身のヘルスを中心に考える、ということである。医療に関与する者にとっての常識と思うが、この「当たり前」のことが意外と実行されないのが世の習いの様だ。ビジネス社会で30年





海外だより

アメリカ人が経営する「日本歯科グループ」を訪ねて——



生きてきた私の実感である。

ベロック医と話していると、よく「カンファタブル(気楽に)」という言葉がとび出す。私自身、よくこの言葉を使うので、彼の云わんとすることがピンとくる。

NYは国際都市で、此処で生きる人は刺激が激しい…、そこへもってきてアメリカでは言葉も習慣も違うから…「ストレスが大変だ」と思う。そして誰も歯科医の好きな人はいないから、「緊張して此処に来る」。

だから、やって来た人を「カンファタブル」な気分にする様心掛けている。たとえば、

●日本語で対応可能とする。

その為に、「ペイシエント・ファシリテーター」として、ミス・サトーが此処で働いている。彼女は87年に米来し、89年からこのNY診療所に勤めている。正式肩書はリセプションリストだが、一目で普通のリセプションリストでないことがわかる。通訳でもない。ひと言で云えば、コミュニケーターなのだ。

「ただでさえ、外国語は億劫ときているのに、歯が痛くて気分が悪いと、よけい億劫になりますからねえ」とベロック医は云う。

待合室の資料も全て日本語だ。「日本歯科グループ——歯科全科診療」「グループ診療とは?」「歯科医院の衛生管理」「神経の治療」「歯の応急措置」「歯の矯正治療」「インプラント」と、各種色別1ページで、分かり易く説明されている。

その傍らには「日本歯科グループ」の紹介パンフレットが置いてあり、それには「ごあんない」に始まり、「診療科目」「小児歯科シリーズ」「日本歯科グループ案内図」等が印刷されている。

ちなみに診療科目は下記の通りである。

- 歯科一般診療——虫歯の治療および差歯(クラウンと歯の支え)、ブリッジ、義歯(総入歯、部分入歯)。

- 小児歯科一般診療——健康な永久歯を育てるための乳歯の虫歯治療。
- 口腔内衛生・清浄および疾病予防処置——虫歯の予防と歯茎の健康を保つため、歯石・歯垢の除去。新しい永久歯を保護するためのフッ素処理とシーラント処理。ホームケアの指導および治療後のアフターケアのアドバイス。
- 歯周治療——歯槽膿漏の進行を止める治療をし、更にホームケアで再発を防止する方法を指導して、できるだけ歯を保存するようにする処置。
- 歯内治療——化膿したり、壊死した歯の神経を治療して、できるだけ歯を保存するようにする処置。
- インプラント——現在使用されている入歯に不満がある、又は入歯が不可能な方への歯の移植。
- 歯列矯正治療——歯列不正と不正咬合の矯正および予防。
- 患者のニーズに合わせて対処する。

患者がカンファタブルな気分となるよう、日本語対応だけでなく、その他のことでも色々心掛けている。

たとえば、日本人ビジネスマンが如何に忙しいか知っているので、診療所のスケジュールを出来るだけ彼等のスケジュールに合わせる努力をしている。目的は彼等を「ヘルプ」することだ。日本のビジネスマンがアメリカでうまくいく様に、つまり成功する様に願ってのことである。

話を聞いていると、どうもベロック医は、歯のこと以外でも相談に乗る感じだ。

「だって彼等がアメリカに来た理由は、歯医者に行く為ではありませんからねえ」と云うので、噴き出してしまった。

ともかく「パブリック・ヘルス」を専攻した人だけあって、歯科医の域を越えてしまっ

海外だより

アメリカ人が経営する「日本歯科グループ」を訪ねて——



ているのは確かだ。

●診療所で働く人を注意して選ぶ。

「グループ診療」とは、その診療所で先に挙げた色々な専門分野の診療が可能ということだが、ベロック医は彼の診療所で働く人は、「こうでなければいけない」、というハッキリした意見の持ち主だ。

彼が最も重視する資格は、「歯科医として」と「人間的に」の2つの要素から成る。

「歯科医として」は、最高レベルであること。そして体験豊かであること。

歯科医になりたくてなった人でなければいけない。歯科が好きで、歯科の仕事をエンジョイする人——朝、診療所に働きに行くのを楽しみにして起きる人——は、「好きこそものの上手なれ」で、歯科医として優秀だ。

どの道を選んだら良いかわからなくて、ふっと歯科大学に行ったり、この分野は儲かると思って歯科に進んだりした人達は、間違っただ理由で歯科医になった人達だ。

「何かの分野が好きになるということは、基本的に、その人の内面からのことなのですよね」と彼は云う。

「人間的に」彼が重視する点は、色んな国の人達と接することにカンファタブルであること、特に日本人とそうであること。

何故なら日本人は特別な人達ですから」とつけ加えたので、その意味を説明して貰った。

「良く本などを読み、世間に精通しています。国際社会での体験が豊かです。ヘルス・ケアを良く理解し、大変スマートで……」

つまりひと言で云うと、日本人は他の国の人達に比べ、ずっと研究心か強く努力家で、博学で賢くて——ということらしい。

何はともあれ、色んな国の人達と交わることにカンファタブルでなければならぬ、とはうがった表現だ。

世界経済では、国境は無くなったも同然で、それに代わり各種様々の文化の時代となって来ている。異文化との接触を億劫がれば、取り残される。進んで接触し交われば、より大きな世界の仲間となり、生活が豊かなものとなる、ということだ。

ニュージャージーの診療所で働く3人のデンタル・アシスタントは、日本人、中国人、フィリピン人だそう。この最初にオープンした「日本歯科グループ」診療所には、一般歯科医3人、口腔外科医1人、オーソドントリスト1人、ペリオドントリスト1人、そしてリセプションニストが3人となっている。

「ですから毎日数カ国語がとび交い、まるで国連みたいです」と笑い、パーティーをする時は、「患者がオーナーの日本レストランですのですよ」と愉快がるベロック医は、フルに仕事をエンジョイしている人だ。

10才を頭に7才と2才の3人の子供のパパでもあり、6時半頃帰宅して子供達が9時頃寝つく迄、奥さんと彼は子供のことにばかり切りとなる。やっと子供達が寝て静かになった頃には、二人とも疲れてしまって、デザートを食べるのがやっと、という具合らしい。

趣味はスキーと写真というが、写真は相当の腕らしい。リコーを3台、その他キヤノン、ペンタックス、ハッセルブラッドを1台ずつ持っているそうだ。

47年ここに住んで、今年初めて自由の女神に行った、とあって笑った。「子供達が行きたがったので——」と。

筆者紹介

岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒業
ランコインターナショナル社長



オサダの商品

〈お元気ですか〉

地挽歯科医院

東京都港区白金台4-7-4 STビル2階

院長 地挽英彦
地挽雅人
地挽早苗



JR目黒駅から目黒通りを都心方面に向かい1キロメートルほど行った通りの左側。東大医学研究所の隣に建つ9階建のグレーのタイル貼りのビル2階に、ご紹介の「地挽歯科医院」はある。

今年7月、大正時代から院長のお父様が続けられていた斜め前にある八芳園脇の診療所から当ビルに移転・再開業されたばかりとあって、真新しいビルが気持ちいい。



診療所内は、限られたスペースゆえ、各部を悠々とまではいかないが、都内の医院らしく、総べてのものがキチッとまとまっている。

待合室の壁には、おそらくご先代が作られた看板であろう、木彫りで「地挽歯科医院」の表示板が装飾品がわりにかけられているが、近代的な院内にあって、不思議に良く合っている。

院長は昭和34年、東京医科歯科大学をご卒業。卒後は母校の補綴学教室の助手として数年を過ごし、昭和40年、お父様のもとに戻られ共に診療生活へ。

ご子息で3代目を引き継がれる雅人氏は、昭和62年、鶴見大学歯学部を卒業後、大学院からさらに第2口腔外科教室へと勉強・研修を積み。4年程前から母校で助手をされる傍らお父様と共に診療生活に入られた。

雅人先生の奥様である早苗さんは神奈川歯科大学を卒業され、卒後は開業医のもとで3年程臨床実習を学ぶ。昨年結婚したばかりとのことで、現在は何かとせわしく此処での勤務は、非常勤です(笑)、とのこと。

3人の医師が揃い、それぞれの専門分野でご活躍される日も間近であろう。

—ご子息も戻られ、もうご安心ですね。「ええ、やっと一息というところです(笑)。ただ器具の扱いやその他、チョッとうるさいぐらい気を使うのでその辺がどうも(笑)。でも専門分野が違いますからこれで良いのでしょうね(笑)。抜歯などは外科ですから得意で……。助かっております(笑)」。

—雅人先生からご覧になった院長は？「おじいさんは頑

固で大変だったが、父も多少その血を引いているようで(笑)……。私もイヤなものはいやと云い、やっぱり血統かな？でも患者さんにはやさしいですよ(笑)」。

—3代目を引き継がれるお気持ち？「駅前ビルなどと違って、こうした場所で70年近く開業しているわけですから、やはり地元に着着した、住民の方々の立場に立って治療をする姿勢を続けていきたいですね。現在の保険制度下では経営もあまり楽ではないのですが、昔からの患者さんが抵抗なく来られる今の体制を当院の特色として大切にしていきたいと思っています」。



—早苗先生もこれからお2人と共に歩まれるわけですが、いかがですか？「父も開業医(内科)でしたので、小さな頃から医師という職業をみて来ました。ですから開業医という仕事には全く抵抗はありませんね。長年培われて来た当院と患者さんの良い関係を大切にしつつ、変化する住民、地域に対応して行きたいなと思っています。義父と夫、2人に色々教えてもらえますか

ら、私にとっては非常に良い勉強になります」。—院長先生は40年近く前、お父様と共に診療生活に入られたようですが、その時断絶は？「いやー、ありましたね。父の時代はバケツ冠の時代でしょ。それに毎日60~70人の患者さんが、押し寄せる、という感じで来院されましたので、自分で何をやっているかわからなかった位でした。私の時代になり、完全予約制としました。現在平均30分で2人位という割合で予約を採っているのですが、それでもキチンとした診療をするのにはちょっとキツイですね。でも現在の保険制度下では……。経営という意味では難しいですね。あと5年位で隠居したいな、と考えているんですよ(笑)」



「いやいや、親父はまだ若いから大丈夫。コキ使わないとボケルから(笑)」と雅人先生。断絶など全く感じられない和気アイアイの雰囲気である。

窓側にはパールグリーンとグレーの〈ファインGM〉と並んで14年前にお買上頂いたスマイリーNが。「親父の代からずっとオサダでした。近くに本社があり心強いということもありますが、やっぱりアフターケアが良いのが続けている一番の原因でしょうね。以前の診療所から持って来たのですが、全く支障がありません」と院長。「このファインGMの機種は私と父。色は妻がきめました。メーカーについてはオサダ以外は初めから考えませんでした」と雅人先生。「私もユニットは誰に聞いてもオサダがいいよ、と云われましたので……その点は3人とも最初から一致していました」と傍らから早苗先生のうれしい言葉。

当方にも親子のしっかりとした絆が伝わる心地良い訪問でした。



父から3代、ずっとオサダです。理由はやっぱりアフターケアの良さ。スマイリーN、14年使っていますが全く支障はありません。



DENTAL SPACE

くりまた 歯科医院

東京都荒川区東尾久6-9-5

院長 栗俣裕子
(旧姓・田内)

**患者さんが気軽に
入って来られる雰囲気。
特に待合室は
“サロン風”に、と思いました。**

三ノ輪橋⇄早稲田間を走る都内では唯一の都電。線路脇に植えられた季節の花と銀杏並木を通して見える下町の風景は、30年前に戻った気分で、心まで和やかにさせてくれる。

ご紹介の「くりまた歯科医院」はその停留所・東尾久3丁目の斜め前にある。間口は約2間、奥行きは5間程のグレーの3階建のビル1階を借りてのご開業で、決して広くはないが、玄関を入ると受付台に、院長そっくりの手作りの縫いぐるみが置かれている。おそらく患者さんからのプレゼントであろう。外景同様、下町の暖かい心の交流がわかるような気がする。

2坪弱くらいかな、と思われる待合室には可愛い籐椅子が2脚とテーブルが。前面は床までの素通しガラスにアイボリーのロールスクリーンブラインド。それに沿って各種の観葉植物が置かれている。爽やかでスッキリと落ち着いた、一目で女医さんが運営されている医院だな、と思わせるやさしさが伝わって来る。

診察室は、壁はグレー、天井は白、床は紫・ブルー・グレーの交じったハーフトーンカラー。壁に向かってグレーと濃紫のスマイリー〈ファイン〉L型が両面使用のキャビネットを挟んで2台並んでいる。ユニット前面の壁

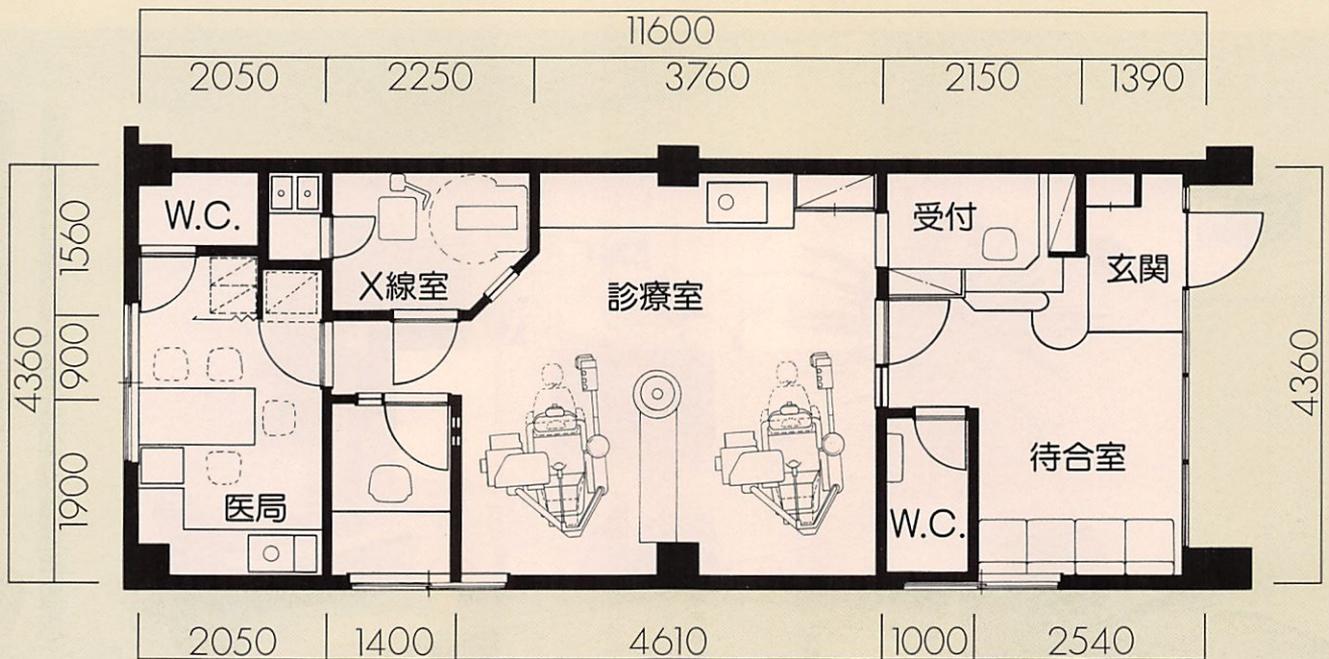
にはメルヘン調の絵画がともしれば冷たくなりがちな診療室内を柔らかく演出している。

ザックバランで親しみの湧く院長と明るく丁寧な対応の2人の女性スタッフの呼吸もピッタリ。こうした雰囲気が来院される患者さん1人1人に伝わるのであろう。“ただ今予約が混雑しておりますので…”の貼り紙がそれを物語っている。

院長は昭和58年、日本大学松戸歯学部をご卒業。卒業後大学の歯周病講座で1年、その後東京・白金、大手町の各診療所で7年の勤務医生活を経験し、一昨年此処東尾久で開業へ踏み切られた。

Q：この辺りがご実家？

院長：いいえ。結婚し子供が生まれましたので仕事を休み、再就職しようとたまたま材料店に行きましたら、どうせなら開業したら、と云われ、それじゃあ(笑)と。



■設計・施工：匠工房株式会社

■開業：平成3年3月 ■スペース：約51㎡(約15坪)

■ユニット：スマイリー〈ファイン〉L型2台

■診療時間：9:30～13:00, 14:00～18:00 休日：木曜、日曜、祭日

■スタッフ構成：歯科医師1名、衛生士2名

■患者数：1日約35名



院長：栗俣裕子先生

川崎生まれで、この辺は全く知らない土地でした。

Q：で、今は？

院長：勤め先がどちらかと云うと山の手やビジネス街でしたので、初めは戸惑いましたが今はすっかり(笑)。下町の雰囲気は好きですし、私に合っているような気がします。

Q：患者層、患者数は？

院長：主婦、ご老人、子供さんが多いです。患者数は1日35名前後ですが、本当は1日15～16人をのんびり治したかったんです(笑)。皆さんからうれしい悲鳴です、と云われるんですが…。もうちょっと広ければ…。今大学の方から週1回助けに来てもらっています。

Q：ご主人のご協力は？

院長：会社を経営しておりますので忙しく。でも最近はだいぶ手伝ってくれるかな

(笑)。子供は主人の両親が面倒みてくれていますので助かっております。でもその他の家事一切は自分でやらなければなりませんから、やっぱり疲れますね(笑)。

Q：女医としてのメリット。何か感じられますか？

院長：下町って、案外外部から入って来にくいところなんです。が、女性は本質的におしゃべり好きでしょ(笑)。立ち話感覚で患者さんも苦しいことを訴えるし、私も応えられる。この場所での開業なら女医で良かったな、と思いますね。

Q：逆にデメリットは？

院長：やっぱり自身の勉強ですね。子供が生まれる前は講習会など気軽に行かれたんですが、母性本能かしら(笑)、やはり子供の事が気になって…。講習もセレクトし、行くようにしておりますが、どうしても取り残されるのでは、という不安感

がありますね。その点、男性に生まれれば良かった。性格もわりと勝気ですし(笑)。

Q：志された動機は？

院長：中学時代盲腸で入院したんですが、同室の患者が痙攣を起こし、先生は原因がわからずあちこち切ったんです。結局歯が原因だったらしいのですが。それから





ですね。将来は医者か歯医者になろう、
と思ったのは。

Q：今後の方向は？

院長：開業してから思ったのですが、あまりにも過去治療されたことについての不平、不満を持っている人が多いんです。そうした方々とゆっくり話をし、歯医者者に対するイメージを変えることが出来ればと…。新しい物をどんどん採り入れることより、患者さんの具合が良いという治療を地道にやって行けたらいいな、と思っております。

Q：でも現状は難しいでしょう(笑)。

院長：ええ(笑)。でも初めての患者さんとはとにかくお話をするようにしています。慣れている方は、相手(患者)の方から今日は混んでいるから長話しは無理だな、と判断してくれています(笑)。

Q：診療所を作られるにあたってご留意され



た点は？

院長：いかにも歯医者、というイメージは避けたいと思いました。“コンニチワ”と気軽に入って来れる医院の雰囲気。待合室はサロン風に仕上げたいと…。ここ

を決める時、設計士さんもいっしょに来てくれ、計画を立てて作ってくれました。欲を云えば色々ありますが、限られたスペースで、ほぼ満足しております。

Q：オサダの〈ファイン〉ご使用感は？

院長：勤務医時代はオサダを使っていて使い易かったんですが、形がどうも、と思っていたんです。展示場に行ったら、このファインが飾ってあったでしょ。色も形も気に入ってしまって…。すぐ決めました。でもコンピューター操作、これはちょっと女性には不向きかしら(笑)。初めにキチッと教われば良かったんですが、多機能過ぎて、途中でわかんなくなっちゃうんです(笑)。私が特別かしら(笑)。でもアフターケアも良いし、治療には問題ありませんね。

Q：最後に友人、知人の皆さんに。

院長：男の人と違って、女性は子供がおりま



すから、夜遅くなる会には出席できないんです。女性だけの同窓会は毎年やっておりますから…。うーん(笑)。とにかく皆さん身体には気を付けて、元気に頑張って!と伝えて下さい。

〈設計・施工の立場から〉

くりまた歯科医院を設計するにあたっての諸条件は、荒川区の下町で都内でも数少ない都電沿線の駅前地域として、住宅、商業、小工業のいりまじった下町で、人情味豊かな住民層が多くこのこっている。先生もこの場所で患者とコミュニケーションが取れる地域密着型の医院造りが希望でした。またテナントビルのボリュームも3階建て、1階は2店舗のみ、2・3階はオーナーの住宅、医院の隣はフラワーショップで目につきやすい場所、このような条件を考えると全体のプランは、内・外共開放的で、爽やかな雰囲気がでるよ

うに、また内部の配置を患者エリア、診療エリア、スタッフエリアの3ブロックに分け、機能、動作、表情、声、音、色等のまじわりを設計のポイントとして取り組む。患者の出入口、待合室はガラス張りで内側にブラインドを取り付け、このブラインドを透して内部の雰囲気うかがえる。

受付カウンターの特徴として、玄関、待合室の床の高底差が12cmあるため、カウンターの高さを変えると同時に、ワークトップ素材も石・木で変化を付け、患者に違和感をあたえないように造っている。

診療室は、採光があまり取れないため、全体の色調を淡い色で明るく統一し、またキャビネット類の仕上材は、ミラノシステムキッチンの素材を利用してシンプルに造る。スタッフエリアは、休憩室を広く取り、トイレ回りの洗濯機、ロッカー、更衣室等をコンパクトにまとめる。 匠工房株式会社

歯科医院の新築・改築・増築から、医院経営まで、すべてわかる。



歯科医院 定価10,300円 (本体10,000円)

開業ガイド

- 〈主な項目〉
- 歯科医院のセクション別実例
 - 歯科医院のレイアウトチェックリストと基本事項
 - 歯科医院のレイアウト実例
 - これから開業される先生方へ
 - オサダからのアドバイス他
- 〈別冊付録〉
- 設備機械、器具、材料リスト



歯科医院 定価6,180円 (本体6,000円)

経営マニュアル

- 〈主な項目〉
- 開業準備の留意点
 - 開業準備計画書/開業収支・資金計画書
 - 歯科医の節税戦略(青色申告)
 - 特別経費・専従者給与
 - 損益通算・特別償却
 - MS法人・医療法人
 - 財テク・税テク 他

*御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業株/お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(3492)7651代



念願かなってアマチュア無線2級取得。
夜11時過ぎから交信しておりますから、ご連絡下さいーい。

郡谷歯科医院

福岡県行橋市大字今井3675-1

院長 郡谷利浩

河口に近い祇(はらい)川に面して建つ診療室内のユニットのアーム上には、それぞれ5.6インチの液晶テレビが置かれ、受付背面のキャビネットの上には、Hi-Fi用のスピーカー3台が設置されている。各テレビは1台ごとに院長室内のビデオ装置に接続され、各個に医院でお知らせしたいことや、啓蒙画面が映し出されるようになっている。

通された院長室の壁面には、ビデオデッキ、無線装置、各種のトランジスターラジオがギッシリと並ぶ。機械オンチの当方にとっては「なんだ、なんだ!？」の感である。

「小さな頃より機械を分解したり、修理したりすることは大好きだったんです。アマチュア無線の免許を取りたいと思ったのは中学

時代なんです、当時の私には内容がハードだったことと、入試をひかえて学校の勉強をしなければならないことから中断しまして、やっと2級の免許を5年前に取りました」と傍らから昭和48年発行の「アマチュア無線講座」と題されたテキストブックをみせてくれる。もちろん当方にはチンプンカンプンである。「そもそもこうしたことに興味を持ったのは、例えばこの電池ですが、これを使うと何故に音となって出て来たり、伝わったりするのか、それが不思議でたまらなかったんです。その根本の原理を知りたくて、次第にのめり込んで行きました」。隣りに建つ実家の屋根にはこれ又無数のアンテナが……。「将来は数10メートルのタワーを立て、1つに総てまとめ

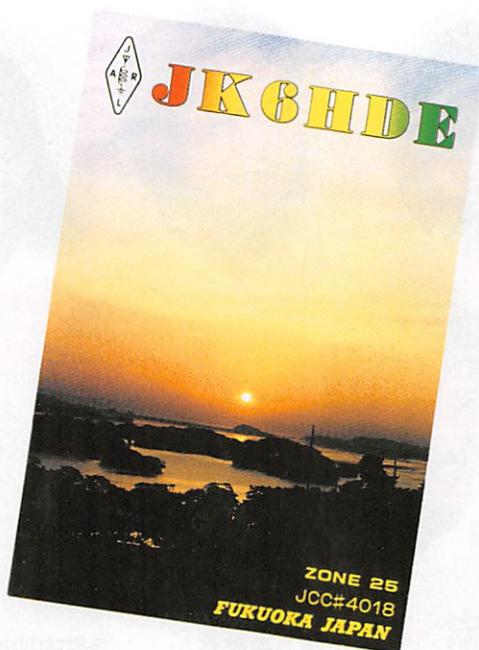
たいんですが、お金が追いつかず(笑)、無線は無銭につながりますね(笑)」。アマチュア無線の面白さは? 「今、半径20~30km以内で作る無線グループの会長をしているんですが、電話と違って、全く知らない人でも1~2時間でも気軽に話していただけることです。24時間、いつでも誰かと話せることが魅力ですね。確かに云われてみれば、旅行に行く場合でも、先々のホテルや天候、見どころなど、色々な情報が居ながらにして得られ、利用の仕方においてはメリットは多い。

——でもちょっと外部から見るとイメージが暗い? 「ええ。確かにしゃべっているイメージは暗いでしょうが、やっている本人は全くないんですよ。嫌なら切ればいいし、合



う相手なら話が弾むし、たのしいですよ(笑)。私は診療が終り、一段落ついた夜11時～12時頃が多いんですが…。話す範囲は? 「全国はむろん、外国とも話せるんですが、私は近くの仲間30人位ですね。今は話す内容より、この人と無線連絡が出来たという証明の、カード交換が主になって来ていますから、単なるカード交換のための話はさけています。」

—ラジオ一つでも、私は最新型一つで充分だと思のですが、何故こんなに? 「ネズミ年だから、何でも集めるのが好きなんです(笑)。歯科医師会で旅行に行っても、行く先々の、中古品売場や質屋、電気屋街など歩き回って、何か変わったものがないかと探すことが大好きですし……。このソニーのラジオは15年前に売り出されたものが、この前旅先で、ケースに入ったまま、新品同様に売っていたんですよ。うれしくなって(笑)。うーん、当方には益々わからなくなる。「性格的なものがありますね。この家の天井、床下に何がどのようにになっているか。何回ももぐりましたから、隅々まで知っていますよ。もぐっていると楽しいですよ(笑)」。……?! 「今



度、待合室に100インチのビデオスクリーンを作り、待っている患者さんにみせようと思っているんです。配線も総て自分でやって…」と活々と語る。「待合室でテレビを見ていた人に、その続きはユニットに座って見られますよ、という、うれしそうに室内に入って来るんです。時々姪が来て私の室でファミコンをするんですが、それを子供さんが座ったテ

レビに流してやると、いっしょになって夢中で観ているんです。趣味と実益をかねて、治療共々、気楽にやっています。田舎ですから出来るんでしょうね(笑)。「でも無線は誰とでも話することが出来ますが、その反面、誰が聞いているかわからないですね。まあ、同じ話を100人の人が聞いていると思わなければ…。昔、長崎にいた頃(長崎大学歯学部卒・第一回生)警察の無線も入って来ましてね。一般に公表される前に知ることが出来ました。今はデジタルに変わりましたからキャッチすることは出来ませんが…。これは何キロステップの何10メガと1つ1つ手にとって話されるが、頷いてはいるものの、全くわからない。読者の先生方の中には、もっと突っ込んで知りたい、と思われている方も多いかと思います…。申し訳ございません。帰り際、「あと10年後に又来て下さいよ。30～40mのタワーを作り、もっと立派なものをお見せしますから」と云われたが…。乞うご期待。ご開業歴3年。患者数は1日30～40人。歯科医師としても立派に医院は経営されております故、ご安心下さい。



アシスタント紹介



医療法人健真会

宮定歯科医院

福岡県田川市新町17-4

院長 宮定 吾朗

小林 恵美さん

松村美貴子さん

瓜生 愛子さん

福島由加里さん

西村 燈子さん

稲居 伸子さん

中上めぐみさん

能塚 幸子さん

古賀利恵子さん

小倉市街より車でおよそ40分。山間に囲まれた田園地帯を走り抜け、田川市に近づくとも緑の山が映りとりられ、白茶けた山肌がむき出した場所が所々に目立つようになる。かつては筑豊最大の炭鉱地帯として全国にその名を知られたが、三井鉱山が閉鎖され、残ったセメント工場の採掘場ということである。

ご紹介の宮定歯科医院は総合庁舎や自治会館の脇、市街を見下ろす丘の中腹地。静かな住宅街の中に建っている。院長先生のお話によると、かつては10万人以上の人口を有したこの町も、現在は57,000人、あと10年で5万人を割るかも知れないとのこと。

とは云うものの、1日の患者数はおよそ50~70名と聞けば、お父様の代から続く歯科医院とはいえ、地元に着した信頼度の高い医院であることには間違いない。

ユニット前面にも、暖かい交流を裏付けるように、患者さんからの贈り物であるカレンダー、提燈、置物等がずらりと並べられている。

ご紹介のアシスタントさんも、入局以来10数年の方から今年3月と幅広い陣容で、雰囲気も取材の話が聞きとれない位の賑やかさ。さぞ患者さんにとってもたのしい医院である

ことだろう。

最初にご紹介するのは田川歯科衛生士専門学校を卒業し、今年7年目を迎えた小林さん。志望動機は「白衣の姿に憧れてこの職業にいたんですが、思っていたより大変な仕事でした」と正直に。気をつけている点は？「患者さんとはとにかく緊張しておりますから、まずはリラックスさせて…。男性の方が気が小さいというか、注射器などみると体を固くしているのがわかります(笑)。その点、院長の会話は上手ですね。この辺りでは一番じゃあないですか。歯医者さんより漫才師になった方がいいみたい(笑)」と、思わずコンビを組んだらどうですか、と聞きたくなるような明るい感じの衛生士さんだ。

福島さんは今年短大の英文科を卒業され入局したばかりのホヤホヤアシスタントさん。何故歯科医院に？「思ったような就職先がなく、叔父にあたる院長に相談したら、当院で働かないかと。知識が全くないし、教えてもらってもすぐ忘れてしまうし(笑)、何もかも大変ですが、職場の雰囲気がたのしいので、これから先も続けていかれそうです」とハキハキ話す、真面目なお嬢さんという印象。

中上さんは衛生士学校に入学したが、気が

変わり、一度は他の職業についたが、やっぱりこの職業が良いと当院に入って3年目。気をつけていることは、「患者さんへの対応や先生の仕事がやりやすいように助手をすることに、一番気をつかいますし、大変ですね。サラリーマンの彼と只今婚約中。「結婚するまでここで患者さんのために一生懸命働きたい」とキッパリ。

松村さんは受付担当。「医療事務の資格を取り、当院に勤めて8年目になりました。1日50名から多い時は70名近い患者さんと話をするわけですが、やっぱり緊張をほぐしてやることと、一目見て顔とカルテがすぐ一致し、疑問や治療内容に応じてやるのが大切です、気をつかいますね。」「子供が2人おりますが、主人も協力的ですし、院内もたのしいから、まだ当分は続けられそうです」とさすがに受付、笑顔を絶やさずしっかりとご返事である。

西村さんも、小林さんと同じ衛生士学校を卒業後、当院に勤めて5年目を迎える。そろそろベテランの域に入る衛生士さん。気を付けていることは「とにかく与えられた仕事をキチンとやること。私のちょっとしたミスでも総て院長先生の責任につながりますから、



一つ一つの仕事に神経を集中することが大切だと思っています。結婚後は？「この仕事は終る時間が遅いので、好きだし、たのしいけれど、私にとって両立は難しいんじゃないかと思っています」。やさしい雰囲気であるが、シンはしっかりしているな、といった印象である。

能塚さんは、助手の傍ら、石膏やインプラント模型を一手に受持つ今年当院で7年目を迎えるアシスタントさん。長く勤められた原因は？「自分でもここまで勤められるとは思わなかったんですよ(笑)。自宅が近いことと、やっぱり院内の雰囲気がたのしいからかしら…。忙しい時は技工室から出られない時もありますし、細かい神経が要求されますが、院長先生をはじめ皆さん面白く、まだ当分続けられそうです。言葉使い、態度。しっかりとしたご返事である。

瓜生さんは、大阪で歯科医院に勤めていたが、故郷に戻り、当院に就職され1年半(トータル7年)を迎えるアシスタントさん。この職業観を「患者さんは色々なタイプの方がおりますので、とにかく相手の気持ちを汲んで、

傷つけないように話すことが大切だと思っています。治療後“ありがとう”と云われますと、ああこの職業について良かったな、と感じますね。やりがいのある職業だと思います」。

稲居さんはこの道15年の大ベテラン。「院長先生が戻られた時とほぼ同じ入局ですが、途中腰を痛めて…。出戻りですよ(笑)。5才と9才の子供がいるんですが、両親が見てくれますから安心して」。当院の良さは？「とにかく明るいですね。患者さんもいっしょになって、いつも笑っている、といった雰囲気です。主人はサラリーマンなので、仕事が忙しくてあまり協力的ではないのですが、まだまだ働きます」と力強いご返事。

古賀さんは鳥栖歯科衛生士専門学校卒の今年15年目を迎えるこれ又ベテランの衛生士さん。「転職するのは嫌いだし、いつの間にか、というのが実感です。年をとっても働らせるようにと資格を取りましたが…。難しいですね。多勢の登場に気を使ってか、口数は少ない。が、皆さんこれ程長く勤められていることは、やはり院内雰囲気。これが女性にとって最も大切な要素であるし、又当院はそれを満たす魅力ある医院であることは確かであろう。

〈院長から一言〉
宮定 吾朗



医院とは基本的に人間同士の心のふれ合いの場であると考えています。特に地方では技術のみが先行しても、決してうまく行きません。常に注意していることは、患者さんの気持ちをリラックスさせること。そのための“やさしい心”です。スタッフとのつき合いも、家

族ぐるみ。これは妻の功績が大だと思のですが(笑)、そうしたことが積み重なって、皆さん長く勤めてくれているようです。働くことの責任感が自身への充実感へとつながり、仕事を離れたら人間同士の暖かいふれ合いを大切にします。私自身も悪いところがありますが(笑)、皆さんそれを補って良くやってくれ、感謝しております。

アシスタント のための 診療室の手引き



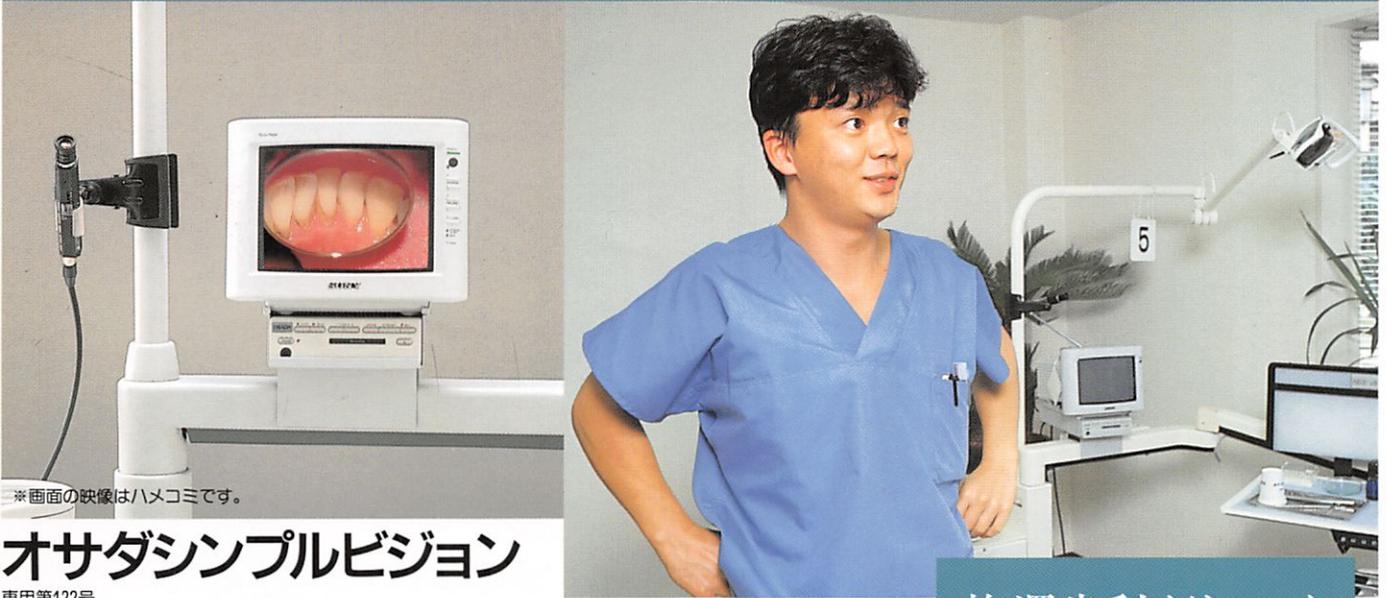
定価6,180円
(本体6,000円)

アシスタントとしての心構えから話し方、患者さんへの対応の仕方、会計、消毒、手渡し技術等々をわかりやすく解説。また、簡単な機器・機械のメンテナンスも図付で説明。アシスタントのノウハウを詰め込んだ一冊です。



※ご希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業(株)／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
☎03(3492)7651(代)

診療室訪問シリーズ



※画面の映像はハメコミです。

オサダシンプルビジョン

東用第122号

梅澤歯科クリニック

埼玉県鴻巣市加美2-10-10

院長 **新保 優**
(鶴見大学歯学部卒・32才)



歯に対しての認識・動機づくり、
以前は写真と拡大鏡を使っておりましたが、
今は全てこのシンプルビジョンになりました。

高崎線・鴻巣駅から車でおよそ7〜8分。住宅街の中に一際目立つ梅沢病院の看板と建物。奥様である敬子先生のお父様が運営される整形外科病院である。その一階約半分を使用されて2年半前にご開業された新保先生。待合室には「その時の出逢いが人生を根底から変えることがある。よき出逢いを」と書かれた相田みつを氏の色紙が掲げられている。「お互いに痛みを分かち合える歯科医であり続けたいな。患者さんとの出会いを大切にしたいな」と思っているんです。「母校で講師を務める各専門家の先輩の先生方に目を決めて来て頂いているんですが、私はどんなに良い治療をしても、最終的には本人の歯についての認識がどの位あるか、で決まると思うのです。そうした話、生活背景等を知るため、特別に相談室を設け、TBIを主体に時間をかけてゆっくり話をすることになっています。現保険制度下では難しい面も多々あるが、医療の本質とは真にそれではあるまいか。「3人の医師で1日50名前後の患者数。はい、恵まれていると思っております(笑)。そうした院長の方針が影響してか、スタッフ一同の表情も明るい。

◇ 窓側に並んだスマイリーユニットのアーム上にはヘンブルビジョンが。「以前は写真を撮り、拡大鏡で口腔内を見せていたんですが、今は全てこのシンプルビジョンです。実際に見せて、モチベーションを高め、本人の予後につながって行けば、と思っっているんです。地域の歯科医として真面目に精一杯生きようとする院長の姿勢が伝わって来る。



診療室訪問シリーズ

医療法人社団 田村会
田村歯科医院

東京都千代田区神田錦町3-22-2

院長 田村 睦
(松本歯科大学卒・40才)



OSADA
Fine GMD L233LL

製造承認番号03日第0326号

長く使うものですから、
チョットとした手間でも疲労が積み重なります。
問題化しつつある感染対策もほぼ万全で、
良いユニットを選んだと思っています。

神田のビジネス街の一角に建つ田村歯科医院。都会の真ん中の医院らしく、院内はさほど大きくはないが、院長先生をはじめ、スタッフの皆さんの対応もキビキビしていて気持ちが良い。

院長はお祖父様の代からこの地で歯科医院を営む3代目。卒業後勤務医を5年間経験し、実家に戻りお父様と共に診療生活へ。「父とは1年程いっしょにやりましたが、私を一人前と見たのか、サツサとやめて今は余生をたのしんでいますよ」と。「当家は両親共歯科医で親戚を含めると10数人おられますので、成るべくして歯科医になった、というのが実感ですね」。「患部層は、地元住民はほとんど郊外に移って行きましたので、オフィス街に勤めるサラリーマンが圧倒的です。それだけに歯に対する認識も高く、良い医院と評判が

けば、次々と紹介で来院されます。気を抜けないが、それだけに「やりがい」がありますし、それが都会の真ん中で開業する良さと思っております。特に商社で海外赴任をされた方達は衛生面等でも日本が一番安心できると、定期的に戻って来て来院されます。そんな時は、やっぱりうれしいですね。周辺には歯科医院が多い激戦地であるが、1日40名前後の患者数は、質の高い診療を施す医院の証でもあるだろう。

◆
◆
診療室にはスマイリーN、ファイン、と並んで今夏売りだした「ヘアインGMD」が。「永年使うものだから、チョットとした手間が疲労を増します。特に衛生面でこの機械は我々がいまクレストしている理想をほぼ備えているのではないのでしょうか。加えて誠実な企業姿勢とアフターの良さ。全く問題はありませぬね」。

*資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。